

たけとりものがたり
竹取物語

むかし、あるところにおじいさんとおばあさんが住んでいました。おじいさんは山から竹を取って来て、いろいろな物を作って、売っていました。

ある日、おじいさんは不思議な光を出している竹を見つけて切りました。中には小さな、かわいい女の子がいました。子供がいないおじいさんとおばあさんはとても喜んで、女の子に「かぐや姫」という名前をつけて、大切に育てました。かぐや姫はどんどん大きくなって、とてもきれいになりました。

美しいかぐや姫のことを聞いて、男たちが結婚を申し込みに来ました。「どうぞ、かぐや姫と結婚させてください。」おじいさんはかぐや姫に男たちの気持ちを伝えましたが、かぐや姫は結婚したくないと言いました。

しかし、5人の男があきらめなかったので、「わたしがお願いした物を探してきた人と結婚します」と言って、男たちを遠い国へ行かせました。かぐや姫が男たちに頼んだ物はとても珍しくて、探すのが大変でした。

一人はインドへ仏の石の鉢を探しに行きました。一人は東の海にある山へ行って、宝石でできた木の枝を取って来なければなりませんでした。一人は絶対に燃えないねずみの皮の着物を探しに中国へ行きました。一人は竜の首の玉を、一人はつばめが持っている珍しい貝を取って来なければなりません

でした。しかし、^{さんねんす}3年過ぎてても、だれも頼んだ物を持っていくことができません
でした。^{むり}無理なことをして、^{びょうき}病気になった^{おとこ}男や死んでしまった^{おとこ}男もいまし
た。

^{てんのう}天皇もかぐや^{ひめ}姫が^す好きになり、^{つま}妻にしたいと思いました。^{なんかい}何回も^{てがみ}手紙で^き気持
ちを伝えましたが、「はい」と言わせることはできませんでした。

そして、また^{さんねん}3年が過ぎて、^{なつ}夏になりました。かぐや^{ひめ}姫は^{まいばんつき}毎晩月を見て泣く
ようになりました。

「かぐや^{ひめ}姫、どうしたの？」

「わたしはこの^{せかい}世界の^{もの}者ではありません。^{つき}月の^{せかい}世界から^き来たのです。^{つぎ}次の^{まんげつ}満月
の^{ばん}晩に^{つき}月へ^{かえ}帰らなければなりません。それで、とても^{かな}悲しいのです。」

びっくりしたおじいさんは^{てんのう}天皇に「かぐや^{ひめ}姫を^{かえ}帰らせないでください」とお
願いしました。^{まんげつ}満月の^{よる}夜、^{てんのう}天皇はたくさんの^{へいたい}兵隊におじいさんの^{いえ}家を守らせま
した。しかし、^{よなか}夜中に^{いえ}家の^{まわ}周りには不思議な^{ふしぎ}光で^{ひかり}いっぱいになって、^{へいたい}兵隊たち
は何も見えなくなりました。^{つき}月から^{くるま}車が^{むか}迎えに^き来たのです。かぐや^{ひめ}姫が^の乗っ
た^{つき}月の^{くるま}車は^{そら}空を^と飛んで^い行きました。

ところで、かぐや^{ひめ}姫は^{かえ}帰るときに、おじいさんたちに^{おく}贈り物^{もの}をしました。

それは「^{ふし}不死の^{くすり}薬」でした。しかし、おじいさんとおばあさんはとても^{かな}悲し
んで、^{くすり}薬を^の飲まないで^し死んでしまいました。^{てんのう}天皇はかぐや^{ひめ}姫がいない^{せかい}世界で^い生

きていても、意味がないい みと思って、高たかい山やまの上で薬くすりを焼やかせました。それから、その山やまは「不死ふ しの山やま」から「富士ふ じの山やま」、そして、「富士山ふ じ さ ん」という名な前まえになったのです。